

第十九回 忠順大賞

(令和六年度)

入賞作品

・応募総数 一四〇二首

・久米翠雲先生 選評

小学生の部

豊田市市長賞

駒場小学校六年 手寫 華菜

三味線を教えてもらった

水曜日

私の手から舞い上がる花

※水曜日に三味線を習っている。

「さくら」の曲が弾けるようになった。

その感動が伝わってきた。下の句が

新鮮に感じる。

豊田市議会議長賞

堤小学校一年 尾園 小茉

おもちつき手がえしたら

あつかった

あとつぎできたとおおばあよろこぶ

※餅つきを、家族全員で行った。私は

初めて、手返しをした。楽しかった。

おおばあちゃんが大喜び。餅も美味

しかったかな。

豊田市教育委員会賞

堤小学校四年 山崎 颯大

お正月みんなでかるた

もりあがり

気づけば大人がしんけんしようぶ

※いとこや家族全員でカルタをした。

にこにこ、わいわい。気がつくど大人

達が真剣になって楽しんでいる。颯大

君の見る目がいい。

中日新聞社賞

堤小学校二年 池谷 杏南

まよいなし はじめてならう生花で

じゆうに切りさし 赤白みどり

※生花を習い始めた。師匠さんから、自

由にと言われ、迷いなく鋏を入れて、

さしていった。短歌も態度も、さっぱ

りして素晴らしい。

会長賞 金賞

堤小学校一年 清水 結月

ねるときにベッドのうえだとびはねて

ママの「うるさい」で一日おわる

※一日中、寝るまで元気。ママの声が

合図。おやすみ。いいね！

会長賞 銀賞

堤小学校四年 石川 彩星

バトミントンお姉ちゃんとダブルスだ

このままがいいな姉妹との仲

※いつも喧嘩ばかりだけど、遊ぶときは

仲良し。下の句がいいね！

会長賞 銅賞

堤小学校六年 藤井 翔和

コンクール音と心を一つにし

席へ届ける虹のかけはし

※一生懸命臨んだコンクール。客席に届

いた、僕の音と心。

優秀賞 (三名)

駒場小学校四年 小山 結楽

ホタル来た光かがやき美しい

心のカメラ写真にのこそ

※蛍狩りに行ったんですね。下の句の

「心のカメラ」新鮮でいい。

駒場小学校五年 小野寺 優馬

しあいの日三対三で大勝負

さいごの一球サヨナラ負けだ

※野球の試合。同点。最後自分の一球

で負けた。悔しい。でも……。

堤小学校一年 井村 彩葵

たんぽぽとおさんぽしたよ

ふゆやすみ

とてもふわふわ わたあめみたい

※冬休み。たんぽぽ手に持ち散歩。楽し

んでいる様子が浮かぶ。

中学・一般の部

豊田市市長賞

駒場町 古賀 さやか

くつ下と肌着に母の名を刺繍

子供の頃と逆だね母さん

※幼稚園やこども園、小学校入学時に、

着る物はもちろん、セツト類の一つ一

つに名前を書いた。感謝しながら、施

設に通う母に名前の刺繍をしている。

五句に万感。

豊田市議会議長賞

前林中学校三年 加藤 一期

見上げてた優しい親のあの顔も

いまじゃ頭のつむじが見える

※父親は大きく偉大であると思いつけ

てきた。ふと並んでみると、自分の方

が背丈は高い。いつの間にか、父の頭の

頂上は髪の毛が薄くなっている長生き

してほしい。

豊田市教育委員会賞

前林中学校一年 新美 友那

魅力的なチアリーディング

華やかな演技の裏に努力と涙

※入部してまだ日も浅いが、チアリーディング好きだ。ひたすら踊りの練習をする。大会当日、他のチームの演技をみて、汗や涙の決勝だと感じた。下の句がいいね！

中日新聞社賞

前林中学校一年 原田 小愛

口ずさむ同じ曲を突然に

友と目が合い大爆笑

※放課時間だろうか、それとも下校時間だろうか。小声でお互い歌いだした。同時だっただろう。同じ曲だった。おもしろ大爆笑。学園物語の一コマですね。楽しい。

会長賞 金賞

駒場町 清水 雅弘

南吉の生家を孫と訪ねたら

切ないゴンの優しさを知る

※「こんぎつね」のゴン。お孫さんも印象深かったと思う。下の句いいです！南吉の特徴がよく表れた作品。

会長賞 銀賞

前林中学校一年 古賀 あおい

砲丸の放物線に夢乗せる

山桃の咲く前中グランド

※まだまだの技量？砲丸の描く放物線。上の句と下の句で、気持ちと情景が浮かぶ。上手い。

会長賞 銅賞

前林中学校三年 宮城 凜

四年ぶりマスクなしでの生活で

やっと見られた本当の笑顔

※コロナ禍で三年間もマスクの中で笑ってきた。やっと顔中で笑いができる。幸せになった。

優秀賞 (二名)

前林中学校三年 中野 希美

来月は制服見せに逢いに行く

あなたの笑顔また見たいから

※三月には希望の学校の制服を着て見せに行くからね、おばあちゃん。きつと、元気でいてね。

前林中学校三年 川角 大翔

人生の生きてる意味がここにある

仲間や家族あふれる笑顔

※同級生がいて、地域があつて家族がいる。毎日の生活に笑いがと悟ったのがすごい。平和なればこそ。

優秀賞

本田町 小西 恭子

川止めで五日かかりし大井川

皆で訪う忠順の旅

※橋を造らず、舟や人足で川を渡らせた。水が出ると川止めが行われた。歴史の旅。短歌の流れが良い。

※無審査

「市長賞」授賞歴のある優れた作品を無審査としました。

駒場町 清水 宣子

相応に老いしに不足なければ

ガラスに映る立つ位置ずらず

秋葉町 岩田 美穂

老独居 庭のくもの巣いとしくて

こわさぬようにかがんで通り

今年も総数一四〇二首の応募を頂くことができました。久米翠雲先生による最終審査により二十二名の方が入選されました。おめでとうございます。

審査をさせていただくこと、責任ある身の引き締まる作業です。作品を拝見しながら、「忠順大賞」に関わらせて頂くことに事務局一同とても嬉しく励みに思っております。

令和六年度、顕彰会は前林中学校一、三年生の道徳の時間に於いて「愛される人とはく村上忠順から学ぶ」のテーマで忠順翁を題材に取り上げていただきました。豊田市視聴覚ライブラリーが作成した「村上忠順物語」を見て、村上忠順がなぜ地域の人に愛されたかを学びながら、愛される人になるにはどのような事が必要かを考えるという授業です。皆さんが活発に議論しながら考えをまとめられていることに心強く感じました。忠順の生き様も含めて、活動の目的などの話もさせていただくことができました。

お忙しい中、指導・協力していただいています小学校、中学校の先生方、地域内外から応募していただいた大勢の方に感謝致します。

(事務局 川村)